

臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について下記のとおり情報を公開します。
研究結果は学会等で発表される事がありますが、その際も個人を特定する情報は公表しません。

★本研究の対象となられる患者さんで本研究にご賛同いただけない方や、研究計画、研究方法、または個人情報の取扱いなどについてお問い合わせがある場合は、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★研究不参加を申し出られた場合も、不利益を受けることはありません。

<研究課題名>

体細胞 RAS 遺伝子変異解析方法の比較検討

<研究機関・研究責任者名>

日本大学医学部病態病理学系腫瘍病理学分野 (研究責任者) 中西 陽子

<研究期間>

西暦 2016年 8 月 1 日 ~ 西暦 2020 年 3 月 31 日

<研究の目的と意義>

大腸癌の治療で、分子標的薬というお薬を使う場合、お薬が効く患者さんと効かない患者さんを検査で調べることができるようになりました。検査は、手術や生検検査で患者さんから採取されて大腸癌と診断された組織を使って行いますので、新たに組織や血液を採取する必要はありません。患者さん個々の癌細胞に見られる蛋白質や遺伝子の状態を検査して、個別の治療計画をすみやかにたてることは、より効果的な治療に必要です。そこで、この研究では、いくつかの検査方法を比較して、より効率的な検査が実施できるようになることを目指します。

<対象となる患者さん>

西暦 2015 年 1 月 1 日 ~ 西暦 2015 年 12 月 31 日の期間に大腸癌で分子標的治療のための遺伝子検査を実施された方

<研究の方法>

この研究は、手術や生検検査で患者さんから採取されて大腸癌と診断された組織を使って行います。患者さん個々の癌組織で EGFR という蛋白質が多く発現している方は、EGFR の働きを抑える分子標的薬の効果が期待できます。ただし、患者さんによっては、EGFR の働きを抑えても、別の RAS という遺伝子が働いていることによって分子標的薬が効かない場合があります。そこで、この RAS 遺伝子の状態を Extended RAS (理研ジェネシス社)を用いたリアルタイム PCR 法と Quenching Probe 法(アークレイ社)で検査して、既に RASKET キット (MBL 社)で測定されている検査結果と比較し、検査感度や特異度などの適性を評価します。この遺伝子の状態は癌細胞だけに見られ、ある特定のお薬の効果を予測するもので、患者さんの遺伝には全く関係ありませんのでご安心下さい。本研究の対象となられる患者さんで本研究にご賛同いただけない方は、下記の問い合わせ窓口までご連絡下さい。

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部病態病理学系腫瘍病理学分野(東京都板橋区大谷口上町 30-1)

氏名:中西 陽子

電話:03-3972-8111 内線:(医局)2256 (PHS)